

発生箇所	②横目地 目地部のパッチング補修箇所
分類	維持修繕
参考箇所	9-6 維持修繕工法の種類と破損の程度に応じた工法の選定

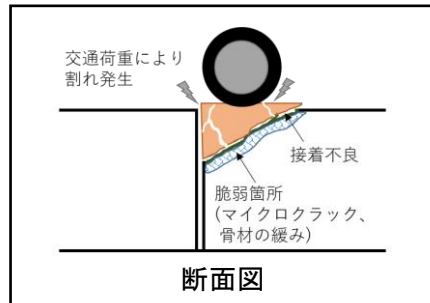
●**内容**

- 目地部の角欠け発生箇所について補修材によるパッチングを実施したが、はく離やひび割れなどの損傷が早期に生じた。



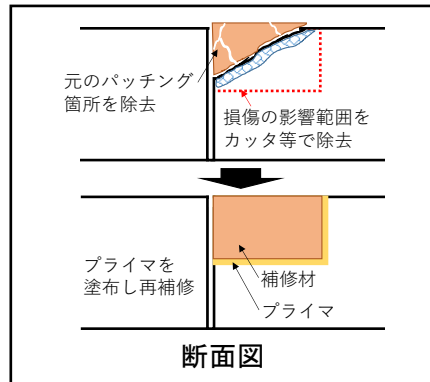
●**原因**

- 既設コンクリート版に脆弱箇所が残っていたため、補修材がコンクリート版からはく離した。
- あるいは既設コンクリート面と補修材料の接着不良により、補修材がコンクリート版からはく離した。
- はく離した箇所に交通荷重が作用することで、ひび割れが生じた。



●**発生防止策**

- 損傷の影響範囲を広く除去し、既設コンクリート版の脆弱部を除去したうえで補修材を施工する。
- 既設コンクリート版との付着を考慮し、マイクロクラック浸透性プライマを塗布するなど付着力を確保することが望ましい。



●**発生した場合の対応策**

- 再度パッチングによる補修を行う。この際、元のパッチング箇所は全て取り除くとともに損傷の影響範囲を広く除去し、脆弱部を除去したうえで補修材を施工する。
- 既設コンクリート版との付着を考慮し、マイクロクラック浸透性プライマを塗布するなど付着力を確保することが望ましい。

